

◎中世と近世の両相を浮き彫りにする、日本地図史料の最高峰!!

柏書房

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-13-14
TEL 03-3947-8251 FAX 03-3947-8255

江戸幕府撰 慶長国絵図集成 付江戸初期日本総図

The Collection of Provincial Maps and General Maps of Japan, compiled by the Tokugawa Shogunate at the early 17th century

川村博忠 (東亜大学教授) 編

定価本体三六〇、〇〇〇円+税

◎造本・体裁

【絵図編】

菊半裁判/全一二五丁

上製特別製本

ISBN4-7601-1894-2

【別冊解題】

B5判/一九二頁/上製

◎執筆者 (執筆順)

福島雅蔵 (花園大学名誉教授)

磯永和貴 (宇治市歴史資料館)

海道静香 (武生高等学校)

倉地克直 (岡山大学教授)

川村博忠 (東亜大学教授)

平井松午 (徳島大学教授)

上原秀明 (専修大学教授)

上 長門国慶長国絵図〔全体図〕(部分)
下 周防国慶長国絵図〔全体図〕(部分)

江戸幕府がおこなった、幕藩制国家体制 確立のための政治地理的大事業

◆国絵図とは

江戸幕府は諸国の主要大名に命じて国ごとの絵図である国絵図と郷帳を作成させ、それが古くなくと改訂しては幕府文庫（官庫）に収納していた。国絵図は国郡制の枠組みによって描かれることが内容上の基調となっていた。国絵図は幕府の巡見使や国目付に提出させたものや、国持大名が領内支配のために独自に作成したものなどもあるが、幕府が慶長、正保、元禄、天保年間に全国一斉に行った国絵図事業はとりわけ注目される。

幕府が現実には幕藩体制による統治を行いながら、諸大名の領域の絵図ではなくこのような国単位の絵図を完備して、これを「官庫の地図」と称していたのは、古代律令国家の伝統を受け継ぐものである。古代国家が崩壊したあと、中世の荘園制時代においては中央の権力が弱く、国家意識は希薄となつて国家的な地図事業なども望むべくもなかった。

一六世紀末にいたり、織田信長の意志を受け継いで天下統一の理想を実現した豊臣秀吉は石高制の導入による検地によって、諸国の生産力を画一的に掌握するため、全国の大名に検地の結果を記載した御前帳（郷帳）と同時に国郡絵図の提出を要請した。豊臣政権によるこの事業は古代王朝国家の伝統を継承しようとしたものであったが、この政権は短命に終わったため事業が貫徹されることはなかった。

地図と土地台帳を中央政府の官庫へ収納する国家的事業が完全な形で復活するのは徳川政権になってからである。徳川家康は江戸幕府創設直後の慶長九年（一六〇四）から翌年にかけて諸国の大名に各国の国絵図提出を命令している。関ヶ原の戦いによって天下を統一した家康は、絵図を提出させることで、幕府を中央集権として公認させようとする意図があったものと考えられる。

江戸幕府が収納した国絵図のうち、現存するのは最後の天保国絵図の全部と元禄国絵図の一部のみである。慶長国絵図としては、諸国の大名が所持していた幕府への献上図やその写が国元に残されている例はあるが残存は非常に少ない。江戸初期の絵図自体が希有である中で、とりわけ慶長国絵図は存在自体がきわめて貴重である。

【本書の特徴】

1. 現存する諸国の慶長国絵図を完全収録

●幕府が収納した慶長国絵図の正図は存在しないが、諸国の大名などが所持していたその控図、写図の中で慶長国絵図と確認できるもの、慶長国絵図の可能性の高いものすべてを収録した。

2. 国の重要文化財をはじめ各地で文化財指定されている貴重図を多数収録

●献上図の控図であることが明確であることから、国の重要文化財に指定された「周防長門十四郡高辻絵図」をはじめ、史料・文化財的価値の高い国絵図・日本総図など一七図を最新の高精細印刷技術を駆使し、現代によりみがかえらせた。

3. 文字情報解読のため全図に拡大分割図を掲載

●それぞれ巨大な図幅を持つ国絵図はこれまで研究・調査が大変困難であった。本書は拡大分割図の掲載により、関ヶ原の戦い直後の大名配置換えによる領地支配をはじめ、地勢、霊山、社寺、交通路など、江戸初期の多種類の情報を机上で読みとることを可能にした。

4. 極彩色で豪華な手書き絵図、江戸初期の日本総図を付載

●江戸幕府が国土掌握の総仕上げとして国絵図より編集した日本総図は、その後の本格的実測日本図「伊能図」にまでつながり、江戸幕府の地図作製事業の流れを追跡できる。

5. 第一線の研究者たちによる充実した解説と解説を別冊に収録

●歴史ないし歴史地理研究者による解説は、絵図の様式や記載内容の分析はもちろん、幕府の意向や藩側の反応など、国絵図に関わるあらゆる問題を解明する。さらに各絵図に記載されている村名や石高などの文字情報解読は、郷村の解体や近世村の成立などの調査研究にも活用できる。

●江戸幕府撰国絵図および日本図関係年表

- 一六〇〇年（慶長五年）関ヶ原の戦いで徳川家康率いる東軍が勝利する。
- 一六〇三年（慶長八年）家康征夷大将軍となり江戸幕府を開く。
- 一六〇四年（慶長九年）幕府、国絵図と御前帳（郷帳）の作成を諸国の大名や国奉行に示達。
- 一六〇五年（慶長一〇年）国奉行の片桐且元が和泉国・摂津国の慶長国絵図および小豆島図を調進。
- 一六〇九年（慶長一五年）国奉行の小堀政一が備中国絵図を調進、この頃までに慶長国絵図の調進がほぼ終了したと思われる。
- 一六三二年（寛永九年）將軍秀忠が没し、家光の御代始めの一環に翌春の諸国巡見使派遣が大名に示達される。大目付が設けられ、国絵図を所管することが決められる。
- 一六三四年（寛永一一年）巡見使、江戸に帰着して分担諸国の国絵図などを上呈し、日本図が作成されたと考えられる。
- 一六三五年（寛永一二年）幕府、武家諸法度を改訂し、参勤交代や大船建造禁止などを定める。
- 一六三八（寛永一五年）幕府、勘定奉行の起り苦戦、地図の必要性を痛感し、日本図を作成する。
- 一六三九年（寛永一六年）江戸城の歴代將軍霊廟横に国絵図を収蔵する紅葉山文庫を創設。ホルトガル船の来航を禁止し、鎖国が完成する。
- 一六四三年（寛永二〇年）諸大名に異国船の沿海警備を命じ、遠見番所が設置される。
- 一六四四年（正保元年）家光、正保国絵図、郷帳、城絵図などの編纂を示達。土井利勝が没し、その遺言で国絵図の編纂を請う。明国、援兵を要請するが幕府はこれを断る。明国滅亡。
- 一六四七年（正保三年）諸国の正保国絵図と郷帳などの献上が始まる。
- 一六五七年（明暦三年）江戸大火（振袖火事）で江戸城の献上国絵図、郷帳の一部が焼失。
- 一六五八（明暦三年）振袖火事によって焼失した国絵図の一部が再提出される。
- 一六六四年（寛文四年）諸国の郡数・郡名を旧に復して、諸大名に領地の判物を与える。
- 一六九七年（元禄一〇年）網吉、元禄国絵図、郷帳などの編纂を示達。
- 一六九九年（元禄一二年）幕府、国境の詳しい記載を求め、その訴訟を受理するために論争が頻発する。
- 一七〇一年（元禄一四年）江戸湯島の幕府絵図小屋や大名屋敷で狩野派の絵師たちが国絵図を清書する。
- 一七〇二（元禄一五年）全国の元禄国絵図献上が完了し、日本図の編纂を開始する。
- 一七一六（享保一五年）吉宗が享保の改革のため、頻りに国絵図を閲覧する。
- 一七一七年（享保二年）吉宗、元禄日本図の不出来を是正する目的で享保日本図の編纂を示達。
- 一七二八年（享保一三年）建部賢弘、交會法を用いて享保日本図を完成させる。
- 一八〇〇年（寛政一二年）伊能忠敬、幕府の命令を受けて第一次測量を行う。
- 一八〇八年（文化五年）間宮林蔵、幕命により松田伝十郎とともに樺太を探検する。
- 一八二二年（文政四年）伊能図の最終版「大日本沿海輿地全図」を幕府に上呈。
- 一八二八年（文政一一年）国禁の日本図を海外持出しが発覚したシーボルト事件が起る。
- 一八三二年（天保二年）天保郷帳の編纂を示達し、実高記載を命じる。
- 一八三五年（天保六年）天保国絵図の編纂のための資料提出を求め、幕府自らが清書する。
- 一八三九年（天保一〇年）幕府、天保国絵図の關係者を賞する。
- 一八四一年（天保一二年）幕府、老中水野忠邦を中心に天保の改革を開始。幕府は海防を目的として全国の沿岸諸国にたいして沿岸浅深絵図（水深図）の調進を命ずる。
- 一八四九年（嘉永二年）